



2025年3月31日

株式会社あいち銀行

## 株式会社ジェイポートとのシンジケートローン方式による ポジティブ・インパクト・ファイナンスの契約締結について

株式会社あいち銀行（頭取 伊藤 行記）は、株式会社ジェイポート（本社 愛知県豊橋市、代表取締役 中神 行敏）と、シンジケートローン方式によるポジティブ・インパクト・ファイナンスの契約を締結しましたのでお知らせいたします。

当行はこれからも、お客さまの多様化する資金調達ニーズに応え、SDGsの趣旨に賛同するお客さまとともに、持続可能な社会づくりを目指してまいります。

### 記

#### 1. シンジケートローンの概要

契約締結日	2025年3月31日（月）
融資金額	550百万円
融資期間	21年
資金使途	事務所兼倉庫建築資金
アレンジャー	株式会社あいち銀行
参加金融機関	株式会社あいち銀行、豊川信用金庫、株式会社商工組合中央金庫

#### 2. 株式会社ジェイポートの概要

本社所在地	愛知県豊橋市神野新田町字ヲノ割16番地5
代表者	中神 行敏
事業内容	港湾荷役機械事業、物流事業（物流・機械・車両）、 コンサルティング事業、再生可能エネルギー事業
設立	2024年

**3. 特定されたインパクトと測定するKPI（2030年に向けた目標）**

（1）高品質な港湾荷役機械の提供による事業の発展及び穀物サプライチェーンへの貢献 ①2030年までにアンローダーを18台販売する（2024年度見込：2台） ※以降の目標は改めて設定
（2）雇用環境の整備 ①2026年度までに営業職2名、技術職2名を新たに採用する ②2027年度までに下記資格の取得者数を各1名以上増加させる 玉掛技能講習、フォークリフト運転技能、移動式クレーン運転士免許、 クレーン・デリック運転士免許、TOEICスコア800点以上、電気主任技術者、 商業簿記2級 （2024年度：玉掛技能講習取得者3名、フォークリフト運転技能取得者4名、移動式 クレーン運転士免許取得者1名、クレーン・デリック運転士免許取得者0名、TOEIC スコア800点以上取得者1名、電気主任技術者取得者0名、商業簿記2級取得者0名） ③2030年度までに従業員の平均有給休暇取得率を90%まで向上させる（2024年度見込： 70%程度） ※いずれも以降の目標は改めて設定
（3）環境負荷の低減 ①2030年度までCO2排出量を2024年度比20%削減する（2024年度より算出開始） ②2030年度までに、取引先から回収したメガソーラーパネル、風力発電用ブレード（羽 根）のリサイクル率を30%とする（2024年度：実績無し） ③従業員向け環境教育プログラム（テーマ：気候変動・土壌環境保護）を年2回開催する ※いずれも以降の目標は改めて設定

&lt;記念盾贈呈式の様子&gt;


 株式会社ジェイポート  
 代表取締役 中神 行敏 氏

 あいち銀行  
 豊橋支店長 小野田 晃

#### 4. ポジティブ・インパクト・ファイナンスについて

国際的な金融原則の枠組みに沿った融資商品で、お客さまの企業活動が環境・社会・経済に及ぼす影響を包括的に分析・評価（以下、「インパクト評価」）します。インパクト評価により特定されたポジティブな影響の増大とネガティブな影響の低減に向けた取組みに対して目標（以下、「K P I」）を設定し、モニタリングを実施することで、当該取組みを継続的に支援いたします。

K P Iの達成に向けて取り組む過程を対外的に発信することで、お客さまの社会的評価の向上が期待されます。

本商品では当行がインパクト評価とモニタリングを実施します<sup>(※1)</sup>。

(※1) 当行のポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体系は、株式会社格付投資情報センター（R & I）より、国連環境計画・金融イニシアティブ（U N E P F I）が制定したポジティブ・インパクト金融原則（P I F原則）への適合についてセカンドオピニオンを取得しています。

以 上



「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」評価書  
～株式会社ジェイポート～

2025年3月31日  
株式会社あいち銀行  
営業企画部  
ファイナンス戦略グループ

## 目次

はじめに	2
1. 企業概要	2
①会社概要	2
②沿革	3
③許可・認証取得一覧	3
④ビジネスモデル図	4
⑤経営理念	5
2. 事業内容	6
①港湾荷役機械事業	6
②物流事業（物流、機械・車両）	8
③コンサルティング事業	8
④再生可能エネルギー事業	9
3. 地域の課題解決に向けた取り組み	12
①愛知県の指標	12
②株式会社ジェイポートの取り組み	13
4. インパクトの特定	14
①インパクトマッピングによるインパクト分布	14
②インパクト分布図（掲載は主要業種のみ）	14
③国内のインパクトニーズ	20
④特定したインパクトに対するあいち銀行およびあいちフィナンシャルグループの 方向性との確認	21
5. 測定する KPI	22
①高品質な港湾荷役機械の提供による事業の発展及び穀物サプライチェーンへの貢 献	22
②雇用環境の整備	23
③環境負荷の低減と地域社会との共存	24
6. インパクトの管理体制	25
7. モニタリング方法	25
8. 総括	25

## はじめに

株式会社あいち銀行は、株式会社ジェイポートの事業が「環境」・「社会」・「経済」に与えるインパクトを分析・評価し、「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、PIF）」を実行した。

なお、株式会社あいち銀行は、国連環境計画金融イニシアティブ（以下、UNEP FI という）が策定した「ポジティブインパクト金融原則」、及び、環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、株式会社ジェイポートの事業活動を分析・評価し KPI を設定した。

### <融資条件概要>

融資形態	コミットメントライン付きタームローン
融資金額	550,000,000 円
資金用途	事務所兼倉庫建築資金
融資期間	21 年

## 1. 企業概要

### ①会社概要

会社名	株式会社ジェイポート
設立年月日	2024 年 2 月 1 日
資本金	30,000,000 円
代表取締役	中神 行敏
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 港湾荷役機械事業</li><li>・ 港湾・空港における物流関連事業</li><li>・ コンサルティング事業</li><li>・ 再生可能エネルギー事業</li></ul>
本社 所在地	愛知県豊橋市神野新田町ヲノ割 16-5
名古屋営業所 所在地	愛知県名古屋市中区大井町 3-15 日重ビル 7F
従業員数	16 名（2024 年 4 月現在）
決算日	3 月 31 日

【ロゴマーク】



【事業所外観】



②沿革

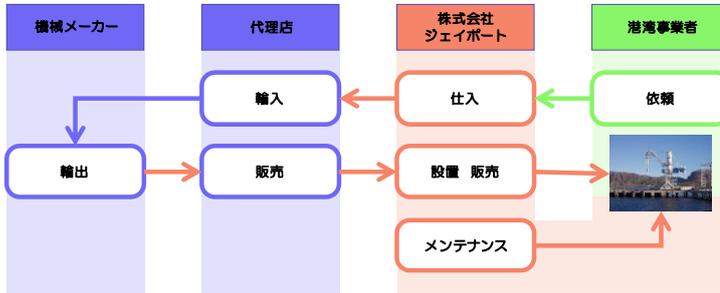
年	概要
2024年2月	・愛知県豊橋市神野新田町ヲノ割 16-5 に株式会社ジェイポートを設立 ・株式会社ネクストを子会社化

③許可・認証取得一覧

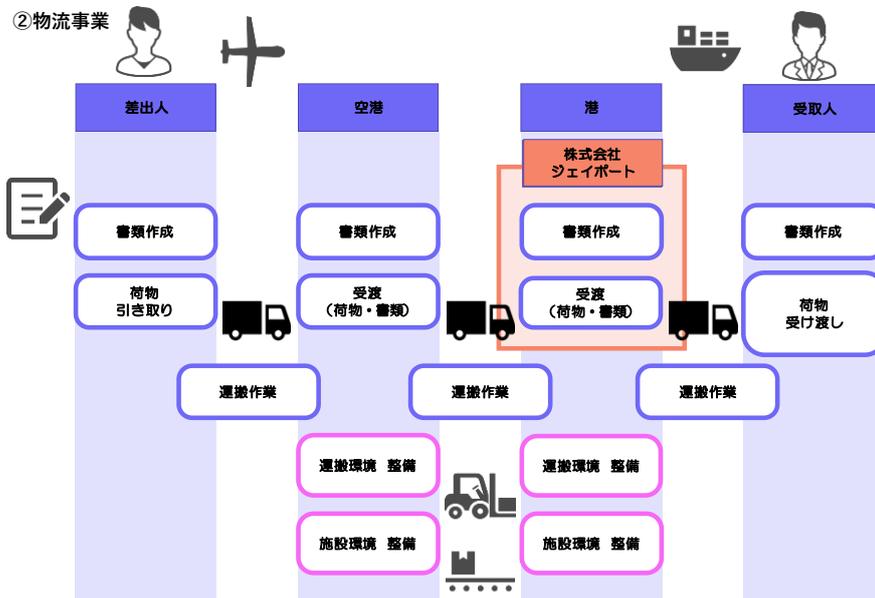
年	取得許可	番号
2024年6月	古物商許可（機械工具類商）	愛知県公安委員会 第 543952405800 号

#### ④ ビジネスモデル図

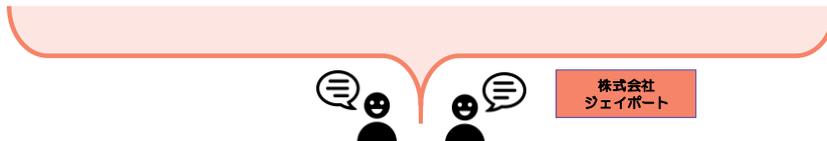
##### ① 港湾荷役機械事業



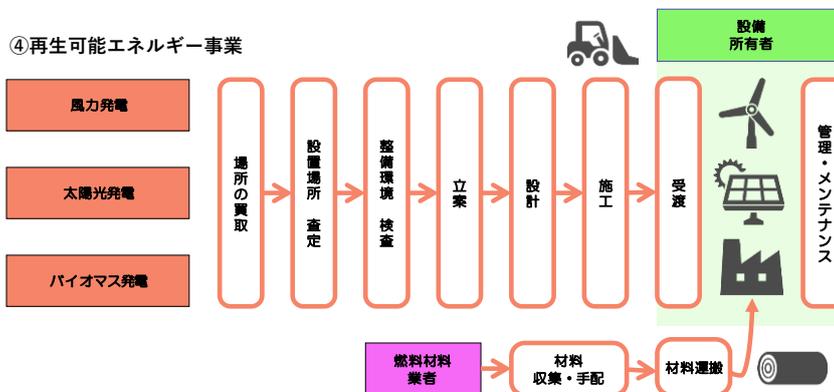
##### ② 物流事業



##### ③ コンサルティング事業



##### ④ 再生可能エネルギー事業



## ⑤経営理念

### 経営理念

1. お客様に対して、常に最善のサービスと提案を提供し、**ビジネス価値の向上に貢献する。**
2. 環境問題の解決に資する製品、技術、サービスを社会に提供することにより、**地球環境保全に貢献する。**
3. 港湾で培った心と経験を礎に、港湾作業従事者の立場に立って、荷役・物流における**革新的で最新、最適な製品、技術、サービスと提案を提供し、港湾物流に貢献する。**
4. **自由と自律を尊重し、多様な個性とチーム力を価値創造の源泉とする。**
5. 自立と連携の精神で、新しい挑戦を続け、**会社の発展と一人一人の幸せとの一致をはかる。**

### ～社長メッセージ～

株式会社ジェイポートは、産学官多くのステークホルダーの皆様のご支援を頂いて、2024年2月1日に発足しました。

私たちに与えられた使命は、地球環境の負荷を少しでも軽減させる取り組み、空港・港湾・陸上における物流改善への取り組み、日本の貿易の約90%以上を依存する船舶に対する様々な後方支援業務の取り組みを主としています。

私たちは会社のロゴにもございますように、原点は海、そして水を守ることをテーマに設立した会社です。水は全ての源であり、水は雲を作り、雨を降らし、多くの植物を育て、肥沃な大地を生みます。我々人類はその恩恵の元で経済活動を飛躍的に向上させて参りました。

しかし、その発展が地球にもたらした影響は、温室効果ガスの大量発生を伴い、地球環境に多大な悪影響をもたらしています。

私たちは、このことを最大のテーマに地球に与える負荷を少しでも軽減させることを目標としました。

私たちは「3」という数字を大切にしています。

会社のロゴの三本のウエーブ（波）は三方良し、「**売り手良し**」「**買い手良し**」「**世間良し**」の三つの「良し」、つまり売り手の都合だけで商いをするのではなく、買い手が心の底から満足し、さらに商いを通じて地域社会の発展や福利の増進に貢献できるのがよい商売であるという、近江商人の心得を反映しています。

また、心・技・体の三つも表しています。まず先に述べましたように「**会社の存続意義を表す情熱**」、「**蓄積した知見と革新的な先端の技術支援・開発**」、「**卓越した技術集団のマンパワー**」をいかに発揮させ、地球環境の向上や物流改善に寄与すること。

そしてもう一つの3本のテーマは、日本を囲む海、「**太平洋**」、「**瀬戸内海**」、「**日本海**」を表しています。私たちのフィールドは日本の海を舞台に環境、貿易、物流を支援いたします。

自然と共生し100年後も持続可能な社会を作り、人々の生活を支えるそんな姿の企業でありたいと考えています。

今後もお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社ジェイポート  
代表取締役 中神行敏

## 2. 事業内容

株式会社ジェイポートは、主に物流に関わる仕事を取りまとめている。

### 【事業内容】

- ① 港湾荷役機械事業
- ② 港湾・空港における物流関連事業
- ③ コンサルティング事業
- ④ 再生可能エネルギー事業

### 【① 港湾荷役機械事業】

株式会社ジェイポートは、輸出入のために港で使用される荷役機械の手配・設置・メンテナンスを行っている。主に手配している機械は海外製の大型機械である。

■ゼネボーゲン社製

マテリアルハンドリング機



■ドップシュタット社製

回転破砕機



■エリヨ社製

自走式切削チップパー機



■メンツィムック社製

4輪多関節型作業機械



■コンラート社製

ハーベスタハイランダー



■コンラート社製

クローラー型タワーヤーダー



海外から船で輸入されてくる、麦や大豆などの穀物を荷揚げする設備を設置している。設

備は大型貨物船に直接積み込まれた穀物を機械で掻き出し、ホースで吸い上げて港湾や河川・運河を移動できる舢（はしけ）に積みなおしをする。設備は大型のものであるため、設置可否を判断するため入念に地形調査を行う。

**【荷揚設備】**

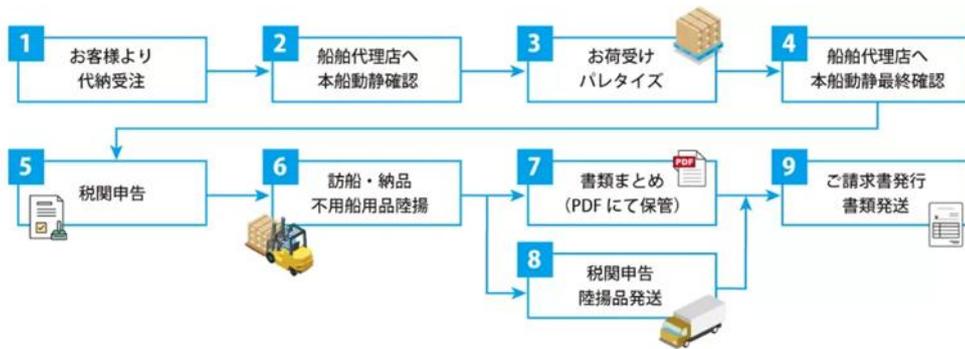
NEUERO 製 ニューマチックアンローダーホッパー



## 【②港湾・空港における物流関連事業】

輸出入で荷物の運搬に必要な設備・機械・車両などの販売やメンテナンスをおこなっている。空港・港湾に運ばれてくる大型の荷物の輸出入にも対応できるような幅広い機種・機械の販売・設置に対応している。また、輸出入されるコンテナや積載物を、空港一港間の移動のため、トラックに乗せ、移動しフォークリフトにて積み入れる転送作業を行っているほか、空港・港湾の輸出入業務に付随する荷物の受渡手続きや受領書・税関書類の手続きを代行している。書類は社内で PDF 管理され再輸入が発生した時の免税対応にも過去の記録から参照して対応している。

### 【物流手続きの流れ】



### 【物流風景】



## 【③コンサルティング事業】

運送・運輸の作業には、環境配慮が可能な改善点が多く存在する。株式会社ジェイポートでは環境負荷の軽減及び物流改善のためのコンサルティング事業を行っている。

コンサルタント提案内容	
環境・エネルギー分野	再生可能エネルギーの利活用、等
交通基盤分野	社会交通インフラ全般に関わる、調査、計画、設計、施工管理、合意形成、維持管理などエンジニアリング・サービス、等
空港・港湾物流分野	物流運営の構築、コスト削減、マテハン機器の導入、人材の適切配置、物流企業の選定、等

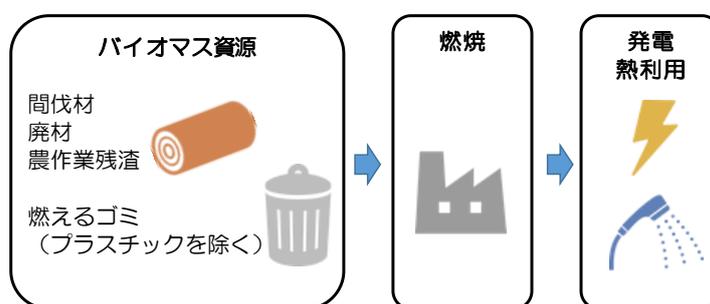
#### 【④再生可能エネルギー事業】

株式会社ジェイポートでは、再生可能エネルギーの発電設備を取り扱っている。

##### ● バイオマス発電

発電施設建設用地の調査から最適化した設備の設計・施工、建設後の発電に必要な木屑や燃えるゴミなどの材料の調達・運送・受け渡し、発電開始後の設備周辺への環境調査、荷役の手配、マテハンまで全ての領域において事業者のサポートを行っている。

#### 【バイオマス発電のしくみ】



#### 【バイオマス発電設備】

■40 立米バイオマス専用



■40 立米バイオマス専用ホッパー



■バイオマス専用グラブ



資格バイオマス発電所



■特殊ミスト噴霧システム



- 太陽光発電

使われていない土地を有効活用した太陽光発電事業について、設備設置用地の調査・取得、立案、設計施工、管理まで一気通貫でサポートを行っている。

【太陽光発電設備】



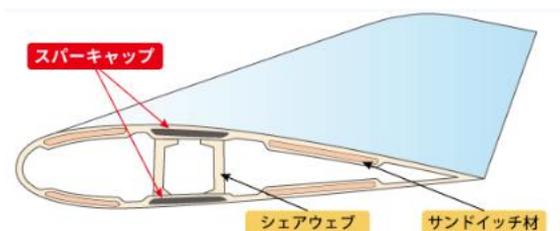
- 風力発電

風力発電施設建設のための調査（設置場所・風況・環境）、立案、設計施工を行っている。株式会社ジェイポートでは地上設置・海上設置のどちらにも対応することができ、設置の希望にあわせて幅広く対応することができる。また、本業のカーボンを使用した風力発電用の羽根（ブレード）の製作を自社で行っている。

【風力発電設備 建設】



【羽根（ブレード）製作】



### 3. 地域の課題解決に向けた取り組み

#### ①愛知県の指標

株式会社ジェイポートは、愛知県豊橋市に本社を構え、愛知県を中心に事業展開している。愛知県においては、リニア中央新幹線が全線開業しスーパー・メガリージョンの形成が期待される 2040 年頃を展望し、2030 年度までに重点的に取り組むべき政策の方向性を示す「あいちビジョン 2030」を 2020 年 11 月に策定した。2030 年度に向けた基本目標として「暮らし」、「経済」、「環境」の指標に加え、SDGs に関連する目標として「重要政策の方向性」を掲げている。

#### <重要政策の方向性> (一部抜粋)

重要政策の方向性	主要な政策の方向性	内容等
すべての人が生涯にわたって活躍できる社会づくり	◆女性の活躍促進 ・活躍の場の拡大と職場定着の促進	・女性をはじめとした様々な主体の参画 ・働く場での女性の活躍拡大
豊かな時間を生み出す働き方が可能な社会づくり	◆新技術を活用した効率的な働き方の促進 ・省力化や無人化の促進 ・移動の効率性向上	・労働時間の短縮や生産性の向上 ・職場の省力化や無人化を促進 ・Maas や自動運転の社会実装を推進 ・移動時間の最適化や効率的な活用
イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり	◆次世代産業の振興 ・自動車産業の振興 ・戦略的な産業集積の促進	・CASE、Maas 等自動車産業の変革期をリード ・EV、PHV 等次世代自動車の更なる普及拡大 ・長年県内に立地している企業の再投資 ・産業集積や投資を促進
持続可能な地域づくり	◆脱炭素社会を見据えた地球温暖化対策の推進 ・再生可能エネルギー等の導入拡大と地産地消の推進 ・環境・新エネルギー産業の振興と E S G 投資の呼び込み ・廃棄物の適正処理に向けた取組	・再生可能エネルギーの主力電源化 ・太陽エネルギーの更なる活用 ・グリーン購入の促進 ・省エネルギー設備の導入 ・再生可能エネルギーの利用 ・プラスチックごみへの対策 ・製造、流通、使用、廃棄における 3 R

## ②株式会社ジェイポートの取り組み

### I. 働きやすい職場づくり

#### ◆ 資格取得のサポート

株式会社ジェイポートは設立からまだ日が浅く、多種の資格をもった人材が少ない状況にある。今後の多様な仕事に対応できるよう株式会社ジェイポートでは高技能講習や資格取得を推進している。運送業務に必要な「玉掛け技能講習」、「フォークリフト運転技能講習」、「大型運転免許」などの資格取得に参加できるよう環境を整えている。

#### ◆ 認定取得へのチャレンジ

社員が健康で働きやすい環境づくりの指針を定めて、健康経営優良法人認定制度、豊橋市の「とよはし健康宣言事業所認定」の2025年度での取得を目指している。

#### ◆ 採用時の家族面談

当社への勤務には、社員の家族の理解も不可欠であると考え、採用時に家族同席で面談の機会を設けている。

### II. 地域社会への貢献

「自社の新事務所を地域防災ステーション」として活用できるよう計画を進めている。近隣のガソリンスタンドやコンビニエンスストアから、災害時には商品提供いただく準備を進めている。

仮設ベッド50名分の設置、備蓄飲料水100名×1日分の保管や、発電機能を持つため太陽光・風力・ディーゼル発電設備、蓄電池を順次準備する予定。

#### 【自社の新事務所（イメージ）】



#### 4. インパクトの特定

##### ①インパクトマッピングによるインパクト分布

あいち銀行は事業性評価の分析により株式会社ジェイポートの主要、関連業種を特定し、UNEP FI が推奨するインパクトマッピングからポジティブインパクト及びネガティブインパクトの分布を調査した。分布図中の「赤色」は重要な影響があるカテゴリ、「黄色」は影響があるカテゴリを示す。株式会社ジェイポートの事業活動を通じて関与できるカテゴリに限定して影響を検討する。

##### ②インパクト分布図（掲載は主要業種のみ）

【当社の川上における事業のインパクト】

◆川上の事業

	その他機械器具卸売業 (4659)	
	ポジティブ	ネガティブ
水(可用性)		
食料		
住居		
健康・衛生		
教育		
雇用	黄色	黄色
エネルギー		
移動手段 (モビリティ)		
情報		
文化・伝統		
人格と人の 安全保障		
正義・公正		
強固な制度・ 平和・安定		
水(品質)		黄色
大気		黄色
土壌		
生物多様性と 生態系サービス		黄色
資源効率・ 安全性		
気候		黄色
廃棄物		黄色
包括的で 健全な経済	黄色	
経済収束		

ポジティブインパクト：「雇用」「包括的で健全な経済」

ネガティブインパクト：「雇用」「水」「大気」「生物多様性と生態系サービス」「気候」「廃棄物」

川上の事業としてその他機械器具卸売業が挙げられる。当社は代理店として商品の仕入を行っているが、当社が関与できる部分は少ない。

【当社における事業のインパクト】

◆当社の事業

	その他機械器具卸売業 (4659)		機械修理業 (3312)		その他の運輸支援活動 (5229)		他に分類されない他の専門 化学及び技術サービス業 (7490)	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ			ポジティブ	ネガティブ
水(可用性)								
食料								
住居								
健康・衛生								
教育								
雇用								
エネルギー								
移動手段 (モビリティ)								
情報								
文化・伝統								
人格と人の 安全保障								
正義・公正								
強固な制度・ 平和・安定								
水(品質)								
大気								
土壌								
生物多様性と 生態系サービス								
資源効率・ 安全性								
気候								
廃棄物								
包括的で 健全な経済								
経済収束								

【当社における事業のインパクト】

ポジティブインパクト：「水（可用性）」「雇用」「水（品質）」「大気」「土壌」「生物多様性と生態系サービス」「資源効率・安全性」「気候」「包括的で健全な経済」

ネガティブインパクト：「雇用」「水（品質）」「大気」「生物多様性と生態系サービス」「気候」「廃棄物」

「雇用」に関して、性別・年齢・障がい・国籍・出身等の差別のない採用基準を制定し、事業に合致したスキルを持った人材を積極的に登用している。やる気・実績を評価対象としており社員のモチベーション向上につながっている。

本件 PIF の資金使途である倉庫は、荷役機械設備の修繕に必要となる部品を保管するために建築する。適切な修繕による各種機械の長寿命化や必要なパーツのみの交換により、新たな資源採掘の抑制に資することから「資源効率・安全性」をはじめ環境面でポジティブインパクトをもたらす。

当社主力取扱製品であるアンローダーは、港における穀物や飼料の荷揚げに欠かすことのできない機械であるが、その多くは設置後 40 年以上経過し、部品供給も終了している。今後見込まれるリプレース需要に対して高品質なアンローダーを供給し、サプライチェーンに貢献することで「包括的で健全な経済」のポジティブインパクトが期待できる。当社が取り扱うアンローダーは、空気式の輸送方式により粉塵の発生を大幅に抑えられるため、周辺機器や周辺環境を清潔に保つことができる。また、省電力で環境負荷の低減に貢献する。

環境面におけるネガティブインパクトについて、KPI として CO<sub>2</sub>排出量の削減を掲げている。EV への切り替え、新社屋に太陽光発電設備や蓄電池を設置することにより再エネ利用を推進することで、「気候」におけるネガティブインパクト低減が期待できる。

「廃棄物」について、機械処分時は再生鉄としてリサイクルを行うこと、KPI としてメガソーラーパネルや風力発電用ブレードのリサイクルの取り扱いを始め、比率を高めていくことでネガティブインパクトの低減に寄与する。

## 【当社の川下における事業のインパクト】

◆川下の事業

	海洋・沿海貨物海運業 (5012)		倉庫・保管業 (5210)		精穀・製粉業 (1061)		加工飼料製造業 (1080)		陸上太陽光発電 (35121)		陸上風力発電 (35141)		洋上風力発電 (35151)		バイオマス発電 (35191)	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水(可用性)																
食料																
住居																
健康・衛生																
教育																
雇用																
エネルギー																
移動手段 (モビリティ)																
情報																
文化・伝統																
人権と人の 安全保障																
正義・公正																
強固な制度・ 平和・安定																
水(品質)																
大気																
土壌																
生物多様性と 生態系サービス																
資源効率・ 安全性																
気候																
廃棄物																
包括的で健全 な経済																
経済収束																

## 【当社の川下における事業のインパクト】

ポジティブインパクト：「食料」「健康・衛生」「雇用」「エネルギー」「文化・伝統」「大気」「気候」「包括的で健全な経済」「経済収束」

ネガティブインパクト：「健康・衛生」「雇用」「文化・伝統」「水(品質)」「大気」「生物多様性と生態系サービス」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」「経済収束」

川下の事業として、海洋・沿海貨物海運業、倉庫・保管業、精穀・製粉業、加工飼料製造業、陸上太陽光発電、陸上風力発電、洋上風力発電及びバイオマス発電を記載している。

### 【海洋・沿海貨物海運業】

当社は、海運会社等を対象にコンサルティングサービスを提供しており、海上輸送燃料のLNG燃料への切り替えによる脱炭素の推進や、他社との共同輸送による燃料使用量削減を進めることで「大気」「気候」のネガティブインパクト縮小を図っている。

### 【倉庫・保管業、精穀・製粉業、加工飼料製造業】

当社がアンローダーの販売をはじめ取り扱いを増加させることで川下事業者の経済活動を支え、「包括的で健全な経済」においてポジティブインパクトへの寄与が期待できる。当社取扱のニューマチックアンローダーは、空気力で材料を吸い上げてバルク貨物を陸

揚げする。機械式に比べ作業時の粉塵を抑えることが可能であり、改良を重ね省エネ化が進んでいることから「大気」「資源効率・安全性」のネガティブインパクト低減にも寄与する。

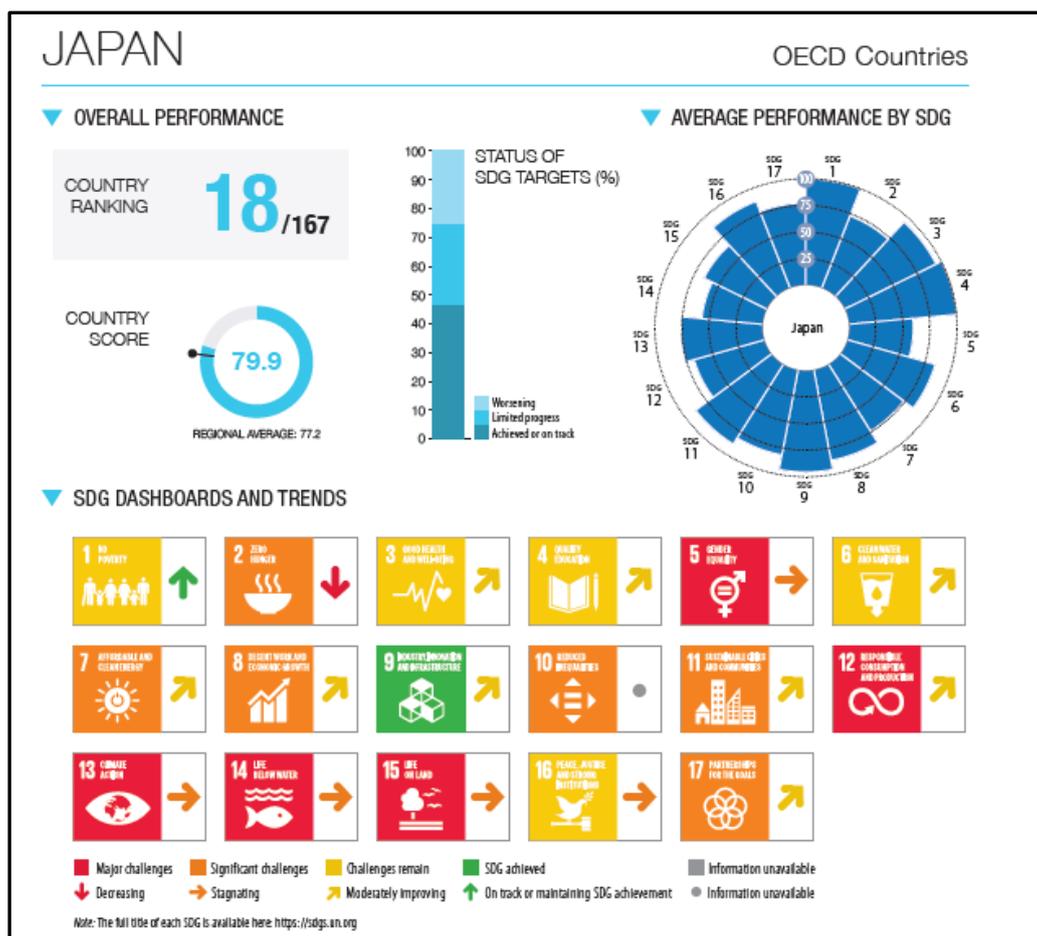
**【陸上太陽光発電、陸上風力発電、洋上風力発電、バイオマス発電】**

当社では再生可能エネルギー発電設備の設計・施工・管理等を手掛けている。国内における再生可能エネルギーの導入拡大・安定供給に向けた取り組みを下支えすることで、「エネルギー」「気候」のポジティブインパクト発現に貢献している。

### ③国内のインパクトニーズ

下記に示したのは、「SDGs インデックス & ダッシュボード 2024」を参照したものであり、「SDGs 達成を緑色」、「課題が残っている SDGs を黄色」、「重要な課題を橙色」、「主要な課題を赤色」としている。

「4.インパクトの特定」においてあいち銀行が特定した株式会社ジェイポートのインパクトと対応する SDGs のゴール「7、8、9、12、13」について、多くが課題のあるゴールに該当するものとなっており、国内のインパクトニーズと整合的である。



特定したインパクトカテゴリー	対応する SDGs のゴール
包括的で健全な経済	9「産業と技術革新の基盤をつくろう」
雇用	8「働きがいも経済成長も」
資源効率・安全性、気候	7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」 12「つくる責任、つかう責任」 13「気候変動に具体的な対策を」

#### ④ 特定したインパクトに対するあいち銀行およびあいちフィナンシャルグループの方向性 との確認

あいち銀行およびその親会社であるあいちフィナンシャルグループは、経営ビジョンのパーパスに「金融サービスを通じて、地域社会の繁栄に貢献します」を掲げ、その理念の下、事業活動を通じ「持続可能な社会の実現」と「当社グループの持続的な成長」を目指している。あいちフィナンシャルグループではサステナビリティ方針として「環境課題への対応方針」「社会課題への対応方針」「サステナビリティ推進体制」を定めており、上記分析で特定した株式会社ジェイポートの事業活動によるインパクトは、あいちフィナンシャルグループのサステナビリティ方針と整合的である。

## 5. 測定する KPI

### ①高品質な港湾荷役機械の提供による事業の発展及び穀物サプライチェーンへの貢献

項目	内容
インパクトの種類	経済面でのポジティブインパクトを拡大 環境面でのポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリー	「大気」「資源効率・安全性」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸入穀物の荷揚げに不可欠な港湾荷役機械（アンローダー）の供給拡大</li> <li>・ 粉塵発生抑制効果と省エネ性能に優れたアンローダーの納入による環境負荷低減への貢献</li> <li>・ 老朽化したアンローダーのリプレース需要の喚起</li> <li>・ 穀物業者主催の協会イベントへの参加および商談会出展による営業推進</li> </ul>
KPI・目標	<p>①2030 年度までにアンローダーを 18 台販売する （2024 年度見込：2 台）</p> <p>※以降の目標は改めて設定</p>

## ②雇用環境の整備

項目	内容
インパクトの種類	社会面でのポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリー	「雇用」
関連する SDGs	
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採用応募者とその家族も交えた面談機会の設定等による当社への理解醸成</li> <li>・社内方針の共有と社員の自己啓発意欲向上</li> <li>・複数業務を担当可能なスキルの習得とバックアップ体制の構築</li> </ul>
KPI・目標	<p>①2026年度までに営業職2名、技術職2名を新たに採用する</p> <p>②2027年度までに下記資格の取得者数を各1名以上増加させる          玉掛技能講習、フォークリフト運転技能、移動式クレーン運転士免許、クレーン・デリック運転士免許、TOEICスコア800点以上、電気主任技術者、商業簿記2級          (2024年度：玉掛技能講習取得者3名、フォークリフト運転技能取得者4名、移動式クレーン運転士免許取得者1名、クレーン・デリック運転士免許取得者0名、TOEICスコア800点以上取得者1名、電気主任技術者取得者0名、商業簿記2級取得者0名)</p> <p>③2030年度までに従業員の平均有給休暇取得率を90%まで向上させる          (2024年度見込：70%程度)</p> <p>※いずれも以降の目標は改めて設定</p>

### ③環境負荷の低減

項目	内容
インパクトの種類	環境面でのポジティブインパクトを拡大 環境面でのネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリー	「廃棄物」「気候」
関連する SDGs	  
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EV 車への入れ替え、公共交通機関の活用</li> <li>・太陽光発電設備および蓄電池を社屋へ設置して再エネ利用を推進するとともに、非常時は地域防災ステーションとして活用できる体制を整備</li> <li>・リサイクル業者の変更、3 R の推進</li> <li>・環境に対する意識向上に向け、外部専門講師の招聘による従業員教育の強化</li> </ul>
KPI・目標	<p>①2030 年度までに CO<sub>2</sub>排出量を 2024 年度比 20%削減する (2024 年度より算出開始)</p> <p>②2030 年度までに、取引先から回収したメガソーラーパネル、風力発電用ブレード(羽根)のリサイクル率を 30%とする (2024 年度:実績無し)</p> <p>③従業員向け環境教育プログラム(テーマ:気候変動・土壌環境保護)を年 2 回開催する</p> <p>※いずれも以降の目標は改めて設定</p>

## 6. インパクトの管理体制

株式会社ジェイポートは、最高責任者を中神社長として組織的にインパクトの管理体制を整備している。また、中神社長を中心にサステナビリティ経営の充実に向けた施策の検討及び実施・検証する体制を構築している。

<管理体制>

最高責任者	中神 行敏
担当部署	代表取締役

## 7. モニタリング方法

PIF で設定した KPI の進捗に対するモニタリングは、管理責任者であるインパクト管理部署と株式会社あいち銀行の担当部署（営業店および営業企画部ファイナンス戦略グループ）が年 1 回以上の協議にて確認する。

協議において、株式会社ジェイポートは設定した KPI の達成度について情報を開示する。株式会社あいち銀行は、達成度・進捗度を確認・検証したうえで、必要があれば KPI の修正を検討し、同社に対して適切な助言を行い支援する。

また、モニタリング実施状況については、株式会社格付投資情報センター（R&I）による包括的な年次レビューを受ける。

## 8. 総括

本件については、UNEP FI の「ポジティブインパクト金融原則」に準拠したファイナンスであり、株式会社ジェイポートの事業活動がポジティブインパクトの増大およびネガティブインパクトの低減につながることを確認した。また、KPI 達成に向けた取組みやモニタリングを通じ、持続的な ESG および SDGs への貢献につながる取組みであることを確認した。

以 上



# セカンドオピニオン

## あいち銀行 ポジティブインパクトファイナンス

2025年3月31日

## 株式会社ジェイポート

サステナブルファイナンス本部

担当アナリスト：新井 真美

格付投資情報センター(R&I)はあいち銀行がジェイポートに対して実施するポジティブインパクトファイナンスについて国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI)が制定したポジティブインパクト金融原則(PIF 原則)に適合していることを確認した。

R&Iは別途、あいち銀行(旧愛知銀行・旧中京銀行)のポジティブインパクトファイナンス実施体制がPIF原則に適合していることを確認している<sup>1</sup>。今回のファイナンスに関してあいち銀行の調査資料の閲覧と担当者への質問を実施し、実施体制の業務プロセスがPIF原則に準拠して適用されていることを確認した。

あいち銀行が実施するインパクトファイナンスの概要は以下のとおり。

### (1) 対象先

社名	株式会社ジェイポート
所在地	愛知県豊橋市
設立	2024年2月
資本金	3,000万円
事業内容	・ 港湾荷役機械事業 ・ 港湾・空港における物流関連事業 ・ コンサルティング事業 ・ 再生可能エネルギー事業
従業員数	16名(2024年4月時点)

### (2) インパクトの特定

あいち銀行は対象先の事業内容や活動地域等についてヒアリングを行い、バリューチェーンの各段階において発現するインパクトを分析し、特定したインパクトカテゴリをSDGsに対応させてインパクトニーズを確認した。また、当社の事業活動が影響を与える地域におけるインパクトニーズとの整合性について、持続可能な開発ソリューションネットワーク(SDSN)が提供するSDGダッシュボードなどを参照し確認した。

### (3) インパクトの評価

あいち銀行は特定したインパクトの実現を測定できるようインパクトの内容を整理してKPIを設定した。ポジティブインパクトはSDGs達成に寄与する取り組みとして追加性があると判断した。また、あいちフィナンシャルグループが掲げるサステナビリティ方針と方向性が一致することを確認した。

<sup>1</sup> 2022年7月13日付セカンドオピニオン「愛知銀行 あいぎんポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制」  
[https://www.r-i.co.jp/news\\_release\\_suf/2022/07/news\\_release\\_suf\\_20220713\\_jpn\\_01.pdf](https://www.r-i.co.jp/news_release_suf/2022/07/news_release_suf_20220713_jpn_01.pdf)  
2023年4月21日付セカンドオピニオン「<中京>ポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制」  
[https://www.r-i.co.jp/news\\_release\\_suf/2023/04/news\\_release\\_suf\\_20230421\\_jpn\\_1.pdf](https://www.r-i.co.jp/news_release_suf/2023/04/news_release_suf_20230421_jpn_1.pdf)

## ① 高品質な港湾荷役機械の提供による事業の発展及び穀物サプライチェーンへの貢献

インパクトの種類	環境面・経済面でのポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「大気」「資源効率・安全性」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸入穀物の荷揚げに不可欠な港湾荷役機械(アンローダー)の供給拡大</li> <li>・ 粉塵発生抑制効果と省エネ性能に優れたアンローダーの納入による環境負荷低減への貢献</li> <li>・ 老朽化したアンローダーのリプレース需要の喚起</li> <li>・ 穀物業者主催の協会イベントへの参加および商談会出店による営業推進</li> </ul>
KPI・目標	① 2030 年度までにアンローダーを 18 台販売する(2024 年度見込: 2 台) ※以降の目標は改めて設定

## ② 雇用環境の整備

インパクトの種類	社会面でのポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 採用応募者とその家族も交えた面談機会の設定等による当社への理解醸成</li> <li>・ 社内方針の共有と社員の自己啓発意欲向上</li> <li>・ 複数業務を担当可能なスキルの習得とバックアップ体制の構築</li> </ul>
KPI・目標	① 2026 年度までに営業職 2 名・技術職 2 名を新たに採用する ② 2027 年度までに下記資格の取得者数を各 1 名以上増加させる 玉掛技能講習、フォークリフト運転技能、移動式クレーン運転士免許、クレーン・デリック運転士免許、TOEIC スコア 800 点以上、電気主任技術者、商業簿記 2 級 (2024 年度: 玉掛技能講習取得者 3 名、フォークリフト運転技能取得者 4 名、移動式クレーン運転士免許取得者 1 名、クレーン・デリック運転士免許取得者 0 名、TOEIC スコア 800 点以上取得者 1 名、電気主任技術者取得者 0 名、商業簿記 2 級取得者 0 名) 2030 年度までに従業員の平均有給休暇取得率を 90%まで向上させる (2024 年度見込: 70%程度) ※いずれも以降の目標は改めて設定

③ 環境負荷の低減

インパクトの種類	環境面でのポジティブインパクトを拡大 環境面でのネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「廃棄物」「気候」
関連する SDGs	  
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EV 車への入れ替え、公共交通機関の活用</li> <li>・ 太陽光発電設備および蓄電池を社屋へ設置して再エネ利用を推進するとともに、非常時は地域防災ステーションとして活用できる体制を整備</li> <li>・ リサイクル業者の変更、3R の推進</li> <li>・ 環境に対する意識向上に向け、外部専門講師の招聘による従業員教育の強化</li> </ul>
KPI・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 2030 年度までに CO<sub>2</sub> 排出量を 2024 年度比 20%削減する (2024 年度より算出開始)</li> <li>② 2030 年度までに、取引先から回収したメガソーラパネル・風力発電用ブレード(羽根)のリサイクル率を 30%以上とする (2024 年度:実績無し)</li> <li>③ 従業員向け環境教育プログラム(テーマ:気候変動・土壌環境保護)を年 2 回開催する</li> </ul> <p>※いずれも以降の目標は改めて設定</p>

(4) モニタリング

あいち銀行は対象先の担当者との会合を少なくとも年に 1 回実施し、本 PIF で設定した KPI の進捗状況について共有する。日々の営業活動を通じた情報交換も行い対象先のインパクト実現に向けた支援を実施する。

以上

## 【留意事項】

本資料に関する一切の権利・利益（著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、特段の記載がない限り、R&Iに帰属します。R&Iの事前の書面による承諾無く、本資料の全部又は一部を使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）することは認められません。

R&Iは、本資料及び本資料の作成に際して利用した情報について、その正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

また、本資料に記載された情報の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報の使用に関連して発生する全ての損害、損失又は費用について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負いません。

セカンドオピニオンは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

セカンドオピニオンは、企業等が環境保全及び社会貢献等を目的とする資金調達のために策定するフレームワークについての公的機関又は民間団体等が策定する当該資金調達に関連する原則等との評価時点における適合性に対するR&Iの意見です。R&Iはセカンドオピニオンによって、適合性以外の事柄（債券発行がフレームワークに従っていること、資金調達の目的となるプロジェクトの実施状況等を含みます）について、何ら意見を表明するものではありません。また、セカンドオピニオンは資金調達の目的となるプロジェクトを実施することによる成果等を証明するものではなく、成果等について責任を負うものではありません。セカンドオピニオンは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。セカンドオピニオンは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&Iはセカンドオピニオンを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&Iがセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報は、R&Iがその裁量により信頼できると判断したものであるものの、R&Iは、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、セカンドオピニオン及びこれらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&Iは、R&Iがセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報、セカンドオピニオンの意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やセカンドオピニオンの使用に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。セカンドオピニオンに関する一切の権利・利益（特許権、著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、R&Iに帰属します。R&Iの事前の書面による許諾無く、評価方法の全部又は一部を自己使用の目的を超えて使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。

セカンドオピニオンは、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。

R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対するR&Iの意見です。R&Iグリーンボンドアセスメントでは、グリーンボンドフレームワークに関してのセカンドオピニオンを付随的に提供する場合があります。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&IはR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報は、R&Iがその裁量により信頼できると判断したものであるものの、R&Iは、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&Iは、資料・情報の不足や、その他の状況により、R&Iの判断でR&Iグリーンボンドアセスメントを保留したり、取り下げたりすることがあります。

R&Iは、R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報、R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントその他の意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やR&Iグリーンボンドアセスメントの使用、あるいはR&Iグリーンボンドアセスメントの変更・保留・取り下げ等に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。

## 【専門性・第三者性】

R&Iは2016年にR&Iグリーンボンドアセスメント業務を開始して以来、多数の評価実績から得られた知見を蓄積しています。2017年からICMA（国際資本市場協会）に事務局を置くグリーンボンド原則／ソーシャルボンド原則にオブザーバーとして加入しています。2018年から環境省のグリーンボンド等の発行促進体制整備支援事業の発行支援者（外部レビュー部門）に登録しています。また、2022年から経済産業省の温暖化対策促進事業におけるトランジション・ファイナンスの指定外部評価機関に採択されています。

R&Iの評価方法、評価実績等についてはR&Iのウェブサイト（<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>）に開示しています。

R&Iは2022年12月、金融庁が公表した「ESG評価・データ提供機関に係る行動規範」（以下、「行動規範」という。）の趣旨に賛同し、これを受け入れる旨を表明しました。行動規範の6つの原則とその実践のための指針へのR&Iの対応状況についてはR&Iのウェブサイト（<https://www.r-i.co.jp/rating/products/esg/index.html>）に開示しています（以下、「対応状況の開示」という。）。

R&Iと資金提供者及び資金調達者との間に利益相反が生じると考えられる資本関係及び人的関係はありません。

なお、R&IはESGファイナンスによる資金提供あるいは資金調達を行う金融機関との間で、金融機関の顧客にR&IのESGファイナンス評価を紹介する契約を締結することがありますが、R&Iは、独立性を確保する措置を講じています。詳細は対応状況の開示をご覧ください。